令和6年度のESDの実践を紹介します。①

志津小学校
5年生

「食の魅力発信プロジェクト
～食環境の現状と課題から
見えること・できること

食環境の現状と課題を知ろう！

湖魚について県の水産課の方から話を聞いたり、田植えや野菜作り体験をしたり、給食の残さい調査をしたりすることから現状と課題を知った。

→ 気づく・知る

Myテーマについて探ろう！～5つのテーマで調べ学習・話合い活動～

専門家の出前授業から学んだり、自分の選んだテーマについてより詳しく調べたりした。

→ 調べる

食環境について学んだことを伝えよう！

テーマ別に学んだことを伝える発表会をした。そこからさらに自分たちが深めたり発信したりしたいことについて確認し、行動していく見通しを持った。

→ まとめる

自分たちにできることをやってみよう！

「フードバンクの取組を全校に広げたい」「給食の残さいがゼロになる献立を考えたい」など自分たちにできそうなことを出し合って計画・実行した。

→ 提案する

食環境フォーラムを開こう！

保護者・地域の方にも食環境について知ってもらうとともに、考えを交流できる場を持った。

→ 行動する 発信する

●持続可能な食環境について考えたり、フードバンクなど自分たちにできることを行動していくことを通して、社会に貢献できることを体感したり、自己有用感を高めたりすることができました。
●地域の方や食に携わる方とのつながりをつくることができ、「地域の人やお家の人に発信したい」という願いを抱き、学習を進めていきました。自己のアイデンティティ確立の糧となりました。

志津南小学校
5年生

「びっくり！わぁ！こんなにすてきがいっぱい！まもり隊」
～住みよいまちづくりに向けて～

びわ湖について知ろう

県の水産課の方から琵琶湖についての話を聞いた。

→ 気づく・知る

びわ湖のひみつを探ろう

琵琶湖について調べたいことを学習課題に設定し、いろいろな観点から調べた。

→ 調べる

びわ湖ポスターを作成しよう

琵琶湖のひみつについて調べたことをポスターにまとめ、紹介し合った。

→ まとめる

びわ湖を守るためにできることをしよう

ヨシ工作やヨシ笛体験学習を通してより身近な存在となった琵琶湖を守っていくために自分たちにできることは何かを考え話し合った。

→ 提案する

ヨシまもり隊・びわ湖まもり隊として地域に発信しよう

●楽しくヨシを活用する方法を伝えるため、保育園の子どもたちとヨシを使った工作で交流した。
●琵琶湖を守る第一歩となるよう、より多くの人に知らせたいという思いから、動画を作成しました。

→ 行動する 発信する

●まず琵琶湖の現状を知る、さらに知りたいことを調べることで、琵琶湖が身近な存在であり、守るべき貴重な存在であることへの気付きにつながりました。
●人と人とのつながりや、自身の体験活動を通して、自然環境を守ることの大切さに気付くとともに、貢献できたという達成感を味わい、自己有用感を高めることができました。

令和6年度のESDの実践を紹介します。②

草津小学校 5年生

Go！5！未来へつなぐ わたしたちと「草津小米」の米作り

おいしい草津小米を作るために大切なことを知ろう

校庭にある草津小学習田でおいしい「草津小米」をつくるために大切なことを調べ、学習田を観察し、地域の方と、米作り体験をした。

→ 気づく・知る

米作りを未来へつなぐためにできることを調べよう

おいしい「草津小米」を未来につなぐために、草津小学習田に引いている「柳川」の水環境について地域や専門家から情報を集め、整理した。

→ 調べる

柳川と琵琶湖と草津小学習田について、現状と課題をまとめよう

柳川と琵琶湖、草津小学習田がつながっていることに気付き、フローティングスクールでの学び等を通して、琵琶湖の現状や水環境についての課題についてまとめる。

→ まとめる

おいしい草津小米を作り続けていくために、課題解決に向け、自分たちにできることをしよう

ポスター制作や清掃活動を行うとともに、課題解決のために考えていることを、校内や地域へ発信・提案した。

→ 提案する

草津小米を未来へつなぐ『お米感謝祭』を開催し、課題解決のために一緒に行動していこう

お世話になった地域の方や専門家の協力のもとで収穫した「草津小米」のよさを伝えるために、保護者や地域の方と感謝祭を開いた。学習田づくりから始まった学びの記録を「草津市子ども環境会議」で展示した。

→ 行動する 発信する

●学校の校庭にある学習田や学校の隣を流れる川を学習教材としているため、地域の方とこどもたちが「身近で本気になれる」教材と繰り返し関わる機会を持つことができました。

●これからも「おいしい草津小米を食べ続けてほしい。」というこどもたちと地域の方の強い願いが、単元全体を貫いており、各教科等の学びと関連づけながら発展的に学ぶことができました。

草津第二小学校 3年生

お店体験 ～地域とつながろう！～

地域のお店について知ろう

どのようなお店があるかを知る。行くお店が決まったらそのお店について知りたいことを考える。

→ 気づく・知る

お店体験をしよう

地域のお店での仕事体験で、お店の方やお客さんとふれあうことで、お店の工夫やよさを調べる。

→ 調べる

お店体験の新聞を作ろう

お店の工夫やよさ、思い出を新聞に書く。お店体験の学習を個人でまとめる。

→ まとめる

お店の良さを友だちと伝え合おう

同じお店を体験した人たちで、お店の工夫やよさを伝える劇をする。

→ 提案する

お店体験での思い出を地域に伝えよう

図画工作科「あの日あの時の気持ち」で、お店体験をしている自分の様子を描く。その絵を地域で飾ってもらうことで、お店体験の様子やそのお店のよさを発信する。

→ 行動する 発信する

●お店で実際に体験させてもらうことで、地域の方の温かさに触れることが出来たり、お店の工夫やよさを新たに知ったりすることができました。

●お店体験の内容を個人で新聞にまとめるだけでなく、他クラスの友だちや同じお店を体験した友だちとお店の工夫やよさを劇にすることで、お店の良さを深く知ることができました。

令和6年度のESDの実践を紹介します。③

渋川小学校 6年

琵琶湖パールと海の真珠を比較しよう！

琵琶湖パールについて知ろう

大津市の真珠商店の方にゲストティーチャーとして来ていただき、琵琶湖パールについてのお話を聞いた。

気づく・知る

海の真珠について調べよう

修学旅行で訪れたミキモト真珠島で、海の真珠について調べたり、海女さんの実演を見たりした。

調べる

学習したことをまとめよう

ゲストティーチャーから学んだことや調べたことを、新聞にしたり、パワーポイント、模造紙にまとめたりした。

まとめる

学習したことや自分の考えを伝えよう

学習してまとめたことやそれに対する自分の考えを、家族や他の学年の人に伝えた。

提案する

ESDミュージアムを開こう

真珠ができるまでの過程や琵琶湖パールと海の真珠の違い、美しい真珠を生み出す琵琶湖や海を守るために自分たちができることについて模造紙にまとめた。全学年の模造紙を体育館に掲示し、ESDミュージアムを開催した。

行動する
発信する

- ●真珠は海だけでなく身近な琵琶湖でも養殖されていることを知り、琵琶湖を大切にしようという思いを改めて持つことができました。
- ●琵琶湖で養殖される真珠があるなら他の湖ではどうか、貝殻がボタンになるなら他には何に使えるのか、探究心を持って学習に臨むことができました。

矢倉小学校 3年生

やぐらの『すてき』をみつけよう

やぐらの『すてき』を教えてもらおう

「まち探検」のオリエンテーションで、矢倉には、わたしたちが知らないたくさんの『すてき』があることを知った。

気づく・知る

『まち探検』にでかけよう

4つの探検コースから行きたいところを選び、その地域の『すてき』を見て、聞いて、さわって、自分で感じることができた。

調べる

みつけた『すてき』を伝え合おう

探検に行ったグループごとに、みつけた『すてき』をまとめて紹介し合った。

まとめる

みつけた『すてき』をお家の人や地域の人にも知ってもらおう

どんな場で、どんな形で発表すれば、よりたくさんの人に『すてき』が伝わるか話し合った。

提案する

地域のみんなで『すてき』を味わおう

「ふれあいまつり」や交流会で、発表の場を持った。動画やかるた、図鑑、地図など、自分たちが考えた方法で、地域の方にみつけた『すてき』を紹介し、共有することができた。

行動する
発信する

- ●知っているつもりになっていた矢倉の『すてき』。まだまだ知らない『すてき』がたくさんあることに、驚き、喜び、楽しんで学習を進めることができました。
- ●『すてき』をたくさんの人と共有し、地域とのつながりがより強まりました。「まだまだ、知らない『すてき』があるはず!」と、子どもたちの郷土愛、探究心が尽きることはありません。

令和6年度のESDの実践を紹介します。④

老上小学校 5年生

安全安心おいしい KOME大作戦

田植えをして米について興味をもつ

田植え体験をしたり、農林水産副大臣や農家の方に話を聞く中で、米作りの課題について興味をもった。

→ 気づく・知る

米の魅力や歴史・課題を考えよう

米の消費量や魅力など様々な観点で、米について調べた。

→ 調べる

米の魅力や課題を知らせよう

米の魅力や昨今の課題をスライドにまとめ、学級内で紹介し合った。

→ まとめる

米の消費量を増やそう

米の魅力を伝えるだけでなく、消費量を増やすために、給食の米を食べるよう、学校内で呼びかけた。

→ 提案する

安全安心老上KOMEフェスを成功させよう

調べたことや様々な調理方法、おいしく食べる工夫や米粉を使った食べ物などを学校や地域の方に発信した。また、参加者にアンケートをとり、自分たちが取り組んだ成果をふり返った。

→ 行動する 発信する

- ●米についての課題を自分事としてとらえるために、外部団体に講話をしてもらい、意識を高く持つように工夫しました。また、課題だけでなく、米の魅力を伝えることで、「米をもっと食べたい。」と感じられるようにしました。
- ●校内→保護者というように、地域に発信していくことを大切に単元計画を考えました。

老上西小学校 5年生

びわ湖からのメッセージ

下水道やヨシについて知ろう

淡海環境保全財団に出前授業をお願いした。

→ 気づく・知る

びわ湖について調べよう

インターネットや本を使って、調べたことをさらに広げ、深めた。

→ 調べる

調べたことをパンフレットにまとめよう

他学年や保護者、一般の方に発信するために、パンフレットを作成した。

→ まとめる

パンフレットを紹介する方法を考えよう

どのように発信するのかを具体的に話し合った。

→ 提案する

パンフレットを配布しよう

3・4・6年生には朝学習に、保護者には2月の参観後に5年生全員で配布し、一般の方には、近くの大型スーパーで学年の代表10名が配布した。

→ 行動する 発信する

- ●地域にある淡海環境保全財団の方とつながれたことで、今後のフローティングスクールでの学習に広がりや深まりがうまれました。
- ●発信することをゴールとして、大型スーパーでパンフレットを配布し、学びを広げることができました。

令和6年度のESDの実践を紹介します。⑤

玉川小学校 6年生

玉川フレンドシップ・プロジェクト

＊フレンドシップドールは、友情と平和の使節人形であり、1927年に米国のギューリック氏より日本の学校園に贈られた。2024年にギューリック三世氏より玉川小学校へ贈られた。

フレンドシップドール＊に学ぼう

フレンドシップドールを介した日米交流の歴史を知り、活動の意義に気付いた。

→ 気づく・知る

自分たちの『平和・友情』の課題を見つめよう

自分たちの「平和・友情」の現状を見つめ直し、課題を解決するためにできることを話し合った。

→ 調べる

フレンドシップドール『Tina』を玉川小学校に迎え、宝物にしよう

フレンドシップドールの意義や自分たちの活動について全校に発表した。

→ まとめる

玉川フレンドシップドールプロジェクトを立ち上げよう

ドールを迎え、贈呈式を開催した。
こども園や地域への発信に向け、準備を進めた。

→ 提案する

平和と友情の大切さを発信しよう

玉川こども園を訪問し、紙芝居やパンフレット、ポスター等の方法で、平和と友情の大切さを発信した。

→ 行動する 発信する

- ●フレンドシップドールの存在や意義を知った児童が「自分たちの学校にもドールを迎えたい」という思いを持てたことで、取組に対する意欲が高まりました。
- ●自分たちの企画・行動が全校児童や校外の人を動かすことを実感するとともに、学んだことを地域に発信することで、地域のために活動できたという自信につながりました。

南笠東小学校 6年生

わたしたちのくらしと防災

もし、今地震が起きたらどうするか考えてみよう

もし、今地震が起きたら、自分はどう行動するか、備蓄は大丈夫なのか考えてみよう

→ 気づく・知る

自分たちに何ができるか、考えてみよう

草津市の危機管理課から草津市の防災対策についての話を聞き、湖南消防署に来ていただいて心肺蘇生などの救命講習を行った。

→ 調べる

ESDミュージアムをつくろう

今までの学習で分かったことを地域に向けて発信するためにマップやポスターなどにまとめた。

→ まとめる

ESDミュージアムで地域の方に提案しよう

まとめたことを「学びのフェスティバル」で展示し、地域に発信した。

→ 提案する

みな小防災ミュージアムをつくろう

地域の方や保護者の方、全校児童に向けて発信した。

→ 行動する 発信する

- ●実際に今大きな地震が起きたらどうするかを想定し、学習を進めました。
- ●危機管理課から話を聞いたり、救命救急体験やけむり体験などの体験を通して、災害を身近に感じ、自分事としてとらえて調べ学習を進め、地域の方や全校児童にむけて発信できました。

令和6年度のESDの実践を紹介します。⑥

山田小学校 4年生

「山田をもっと好きになろう」湖魚料理を考えてアピールしよう！

北山田漁港の取組を知ろう

フナの放流体験や水草刈りの見学を通して、琵琶湖の環境や漁師の方の取組について知った。

気づく・知る

調べる

湖魚料理を考えよう

「湖魚をもっと食べてほしい。」という漁業組合の方の話を聞き、湖魚を使ったレシピを提案することにした。
また、世界の魚料理や魚の調理方法について調べた。

まとめる

湖魚料理を伝え合おう

班ごとに考えた湖魚メニューを学級で発表し合った。
また、実際に調理を行い、試食した。

提案する

湖魚料理を提案しよう

来年度の給食メニューに採用してもらうために給食センターの方に来ていただき、自分たちが考えた湖魚メニューのレシピを発表した。

行動する 発信する

さらに湖魚料理を広めよう

多くの人に湖魚料理について知ってもらえるように、湖魚料理のポップを作り、湖魚を扱うお店に掲示してもらった。

●自分たちの地域の方々の環境保全の取組を知り、自分たちの地域の素晴らしさを再発見する機会になりました。
●地域の方の思いを知り、課題解決のために話し合ったり、調べたりすることで、探究心や協同性を高めることができました。

笠縫小学校 6年生

笠縫の歴史とこれから

笠縫の歴史や笠縫地域について知ろう

地域に詳しい、笠縫まちづくりセンターの方の話から、地域の歴史を学んだり、地域の課題に気づいたりした。

気づく・知る

学校の歴史や地域の課題を調べよう

①笠縫小の歴史②サンヤレ踊り③ai彩ひろば④ツナガリ隊の4つのコースから取り組みたいコースを選び、外部講師の方の話を聞いたり、調べ学習を行ったりした。

調べる

コースごとに、調べたことをまとめよう

コースごとに模造紙やパワーポイントにまとめたり、公園の使い方に関する啓発ポスターを作成したりした。

まとめる

発表に向けて、準備をしよう

笠縫小学校 創立150周年記念式典での発表に向けて準備をした。サンヤレ踊りを練習したり、まとめたものの発表の練習をしたりした。

提案する

身近な人から発信しよう

笠縫小学校 創立150周年記念式典で、これまでの取り組みや、笠縫学区の良さを発信した。また、作成した啓発ポスターをai彩ひろばに飾ってもらえるように行動したり、地域同士の繋がりを深めることを目的としたツナガリ祭を開催し、幅広い世代の方と交流をしたりした。

行動する 発信する

●学んだことや調べたことを身近な人へ伝えることで、地元に対する知識や良さに改めて気づくことができました。
●児童が考えたことや取り組んだことを形にし、発表を通して地域に発信することで、地域の方から感謝の気持ちを伝えてもらうことができました。

令和6年度のESDの実践を紹介します。⑦

笠縫東小学校 5年生

未来へ残そう！美しいふるさとの川 We Love 葉山川プロジェクト

気づく・知る ← **葉山川について知ろう**
地域の方に協力していただき、「葉山川生き物調査」を行った。

調べる ← **川を守るための取り組みを調べよう**
葉山川をよりよくするため、環境保全のための取組について調べた。

まとめる ← **葉山川プロジェクトを立ち上げよう**
4つのチームに分かれて、プロジェクトの具体的な内容を考えた。

提案する ← **葉山川プロジェクトの提案をしよう**
東っ子博物館でプロジェクトの提案をし、地域の方から意見をいただいた。

行動する 発信する ← **葉山川プロジェクトを実行しよう**
地域の方が葉山川に親しめるように、階段設置を求める要望書を県に提出したり、ゴミ拾いイベントを企画したりするなど、それぞれのチームがプロジェクトを実行した。

●葉山川の抱える問題を自分事として捉え、地域の方や友だちと共同してプロジェクトに取り組みました。
●葉山川のよさを守ろうとする地域の方の思いに触れることで、葉山川に親しみ、愛着を持つことができました。

常盤小学校 4年生

常盤健康体操で 常盤学区を元気にし隊！

気づく・知る ← **常盤学区の現状を知ろう**
常盤学区まちづくりプランや年代別人口一覧表などを見て、常盤学区の現状を知った。

調べる ← **地域のお年寄りの健康のためにできることを調べよう**
実際に地域に出かけ、お年寄りの健康にとって大切なことは何かアンケート・インタビューをして調べた。

まとめる ← **地域のお年寄りのための『常盤健康体操』を作ろう**
本やインターネットで調べたり、高齢者体操の専門家に教えてもらったりして、常盤健康体操を考案した。

提案する ← **地域の方に体操をお披露目しよう**
地域の体操サークルやデイサービスセンターでお披露目し、感想をもらった。

行動する 発信する ← **健康体操イベントを開こう**
まちづくりセンターで健康体操イベントを開催し地域のお年寄りの方に考案した健康体操を広めるとともに、地域のつながりや地域に貢献することの良さを実感した。

●地域の実態や地域の方の思いを自分たちで調査し、自ら課題を設定したことで、取組に対する意欲が高まりました。
●まちづくりセンターやデイサービスセンターに実際に出向き、健康体操を通した交流を繰り返したことで、地域貢献の実感を得ることができ、自己有用感を高めることにつながりました。

令和6年度のESDの実践を紹介します。⑧

高穂中学校 3年生

「たかほ学」Well-Being*な社会を創るために～社会参加学習～

*Well-Beingとは、個人や社会がよい状態であることを意味し、一般的に幸福な状態を言う。

気づく・知る

草津市（滋賀）と沖縄県との違いに気づく

沖縄への修学旅行で分野別体験学習を行い、沖縄の各分野における現状や特徴について知った。

調べる

沖縄探究学習

- 各分野の草津市（滋賀）と沖縄県の共通点や相違点を調べた。
- 比較の中で草津市（滋賀）の分野別課題を整理した。
- その課題解決に向けた取組を調べた。
- 発表会を設定し、学習内容を交流し合った。

まとめる

コラボレーション

- 自分が学んできた分野ともう1つ別の分野の視点をコラボレーションさせて、課題解決の方策を考えた。
- 地域に向けて発信する内容をまとめた。

提案する

「たかほサミット」コラボレーションで考えたGlocal実践の内容について、サミットを参観する保護者、地域住民、下級生等に提案した。

行動する 発信する

「Glocal実践」*開催小学校、企業、行政、地域、関係機関等へ提案
- 旅行会社へツアーの提案
- 高穂オリジナル地域情報誌の作成と配布
- 小学生と一緒にベジクサを使ったお菓子作り
- 健康ウオークラリー、健康相談会
- 小学生へ防災ダンスを紹介など

*「Glocal実践」とは、グローバル（地球規模）とローカル（地域的な）を合わせた言葉で、地球規模の視野で考え、地域で行動することを言う

- Well-Beingな社会を創るためには、まず自分たちが行動することも必要という思いが持てていました。
- 地域の方をはじめ、校区の小学生や企業、行政の方々とも連携でき、社会に開かれた参加学習となりました。

草津中学校 3年生

草津市未来計画～ずっと草津～ まめバス/まめタクを用いた地域観光発信

気づく・知る

草津のコミュニティバス まめバス/まめタクについて知ろう

市の交通政策課の方の話から、まめバス/まめタクの現状や課題をとらえた。

調べる

草津の地域課題を探ろう

まめバス/まめタクについてのアンケート調査を行い、まめバス/まめタクへの地域の人々の要望を調査した。

まとめる

まめバス/まめタクを使った着地型観光ツアーを考えよう

草津の地域資源発掘に向けて現地取材を行うため、事前準備を行った。

提案する

現地調査取材をしよう

着地型観光ツアー*を提案するために、取材を行った。

行動する 発信する

草津観光マップを作って草津の良さを伝えよう

地域のお店や施設と協力し、まめバス/まめタクを使って地域を活性化するにはどのような課題があるのかを再認識し、考えた解決方法を共有した。「まめぶらマップ」を作成し、地域の人々に草津のよさを伝えた。

*着地型観光ツアーとは、地域の人が地域の魅力を押し出す観光やツアーを企画し提供するもの。

- 着地型観光ツアーを考えることで、地域の現状を知り、地域活性化の課題に気づくことができました。
- 地域同士、人と人とのつながりや支え合いによって社会や地域は成り立っていることに気づき、課題解決のために自ら考え行動することで自主性、探究性、社会性を高めることができました。

令和6年度のESDの実践を紹介します。⑨

老上中学校 3年生

老上再発見プロジェクト ～Oikami Rediscovery Project

『老上』とはどのような場所か調べよう

「老上」とはどのような場所なのか、地域の方々や学芸員の方に来てもらい講演会を開いた。

『老上』のフィールドワークをしよう

「老上」にはどのようなものがあるのか、矢橋、新浜、南草津駅、プリムタウンに分かれてフィールドワークを行った。

『老上』のよさや魅力をまとめよう

「老上」のよさや魅力について、「社会」、「経済」、「環境」の視点でタブレットを使ってまとめた。

発信方法を考えよう

「老上」のよさや魅力を広く伝え、次世代にもつなげていくために、私たちになにができるか、どのような発信方法がよいか考え、学年集会にお世話になった地域の方々を招き発表した。

『老上』のよさや魅力を伝えよう

国語科と関連付けて、通学路に見る後世に残したい景色を写真に収め、俳句を詠んだ。写真と俳句や俳句に込めた思いをまとめ、まちづくりセンターに掲示した。

気づく・知る → 調べる → まとめる → 提案する → 行動する 発信する

- 「老上」のよさや魅力について自分たちで見つけ出し、それを広く発信するための方法を考え実践することができました。
- 他者と協力しながら活動することを通して、コミュニケーション力を養うことができました。

玉川中学校 2年生（宇宙分野）

専門家の力を借りながら、より深く探求し、自分たちが今できることを発信しよう!!

果たして人類は月に住めるのか？

月での長期滞在を目的としたアルテミス計画を知り、人類の生存に適した環境について考えた。

人類と宇宙の関係について学ぼう

宇宙地球探査研究センターを訪問し、私たちの暮らしに関わる人工衛星についての基礎知識を身につけた。

人工衛星の電波をキャッチしよう

学んだ電波の知識をもとにアンテナを制作し、飛来する人工衛星を狙って、その電波のキャッチに挑戦した。

最適な環境を討論しよう

宇宙へ広がる生活圏について学び、地球に住む私たちの最適な環境づくりに向けてできることを考えた。

つながり学習発表会で発信しよう！

全校生徒や保護者、地域の人たちに、取組の概要の紹介と地球環境保全についての考えを発表した。

気づく・知る → 調べる → まとめる → 提案する → 行動する 発信する

- 2年生は、琵琶湖、地域、防災、人権、宇宙の5つの分野に分かれて取り組みました。一人ひとりが自分の興味関心の高い課題に主体的に取り組み、大きな成果につながりました。
- 地域の企業、大学、消防署、地域NPOなどの協力を得て、より専門性の高い活動に取り組むことができ、ともに課題解決に向かう「つながり」を感じることができました。

令和6年度のESDの実践を紹介します。⑩

新堂中学校 3年生

新中ESD～地域とともに学びを次世代へつなげよう

園児に伝わる方法を考えよう
職場体験学習の経験を振り返ったり、弟や妹がいる生徒の意見を聞いたりして園児に伝わる方法を探った。

気づく・知る

園児が夢中になる方法を探そう
絵本や紙芝居を分析し、実際の保育現場の工夫にも焦点をあて、調べ学習を実施した。

調べる

感情を動かす劇を作ろう
ただ情報を伝えるのではなく、園児が感情を揺さぶられ、自ら考えられるような劇や紙芝居を作りあげるべく、物語や演出を緻密に作り込んだ。

まとめる

園児が楽しめる表現を追求しよう
動き・セリフ・演出を磨きあげ、より園児の心に残る表現を考えた。

提案する

『寝て・食べて・遊ぼう』を伝えよう
劇を通じて、園児に睡眠、食事、遊びの重要性を伝えた。劇の中で、園児が元気に過ごすためにはしっかり寝て、バランスの取れた食事をし、楽しく遊ぶことが大切だというメッセージをわかりやすく表現した。

行動する 発信する

●園児の心に印象を与える方法を工夫した点が評価できるポイントとなります。中学生が主体となり、劇や紙芝居という動的かつ創造的な手法で、「睡眠」「食事」「遊び」の重要性を伝えた結果、園児は単なる知識ではなく、感情を伴った深い理解を得ることができたと考えています。単なる情報提供にとどまらず、園児が自ら考え、行動に移す力を引き出す表現方法を徹底的に追求し、楽しさと学びを融合させました。

松原中学校 3年

実現しよう！「世界湖沼デー」制定プロジェクト【英語科×G-GRIT学習】＊

＊G-GRIT学習とは、粘り強くやり抜く力を獲得する学習

世界の絶滅危惧種について知ろう
英語科の授業で世界の絶滅危惧種について学習し、身近な動植物についても危機が迫っていることに気づく。

気づく・知る

琵琶湖の環境とその保全について考えよう
身近な自然環境である琵琶湖についての講演を聴き、世界湖沼の日の存在を知ることができた。

調べる

琵琶湖の保全に向けてのアクションプランを考えよう
琵琶湖の保全に向けて自分たち一人ひとりができることを主体的に考え、まとめた。また、世界湖沼の日制定に向けてモニュメントを作製した。

まとめる

アクションプランを発表しよう
自分たちが考えたアクションプランをクラス内で発表した。

提案する

インドネシアの中学生と交流しよう
インドネシアの中学生と現地の湖沼の環境保全に向けてのアクションプランを英語で交流をした。

行動する 発信する

●英語の学習だけではなく、「世界湖沼の日」という題材を使って国際理解についても考えることができました。
●未来を予測して計画を立てる力を身に付けることができ、これからの生徒自身の生き方に大きく影響を与えることができました。